

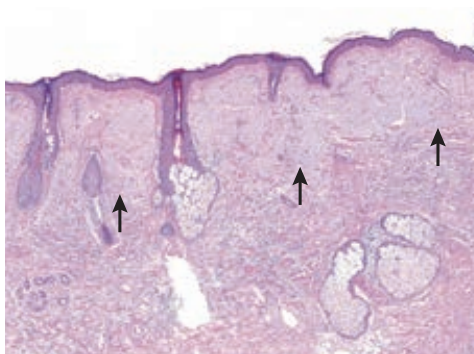


図 18.2 皮膚老化 (skin aging) の病理組織像  
表皮が萎縮し真皮上層の弾性線維、膠原線維が断裂し、塊状を呈する (矢印)。

## 治療・予後

現時点で有効な治療法はない。時間の経過とともに目立たなくなるが、完全に消退することはない。

## 2. 皮膚老化 skin aging

類義語：老人性皮膚萎縮症 (senile skin atrophy), 日光性弾力線維症 (solar elastosis), 皮膚粗鬆症 (dermatoporosis)

### Essence

- 加齢とともに生じる皮膚変化の総称。長期の光線曝露も関与する。
- 基本は皮膚全体の機能低下と萎縮である。
- 後頸部に生じ、菱形に深い溝が形成されたものを項部菱形皮膚という。

### 症状

加齢とともに生じる皮膚変化の総称。皮膚は全体的に菲薄化して緊張を失い、とくに顔面や頸部、関節部では、皮野に沿った皺を形成するようになる。ドライスキンから秕糠様落屑を生じ、皮脂欠乏性湿疹、皮膚掻痒症をきたしうる。萎縮によって独特の淡黄色調の光沢を示したり、あるいは褐色調となる。紫外線を受けやすい露光部ではとくに顕著となる〔光老化 (photoaging), 13 章 p.229 も参照〕。戸外労働者では変化が強く、とくに項部では深い皮溝が形成され、菱形の皮野形成が認められる〔項部菱形皮膚 (cutis rhomboidalis nuchae)〕。また、血管の脆弱性により紫斑を生じやすくなる (老人性紫斑, 11 章 p.184 参照)。

### 病理所見

紫外線の影響によって表皮が菲薄化し、表皮突起が消失する。真皮も薄くなり、膠原線維の減少が著しい (図 18.2)。エラスチカ・ワンギーソン染色では弾性線維は断裂し、小塊状変化をきたす〔日光性弾力線維症 (solar elastosis)〕。汗腺や脂腺の数、大きさは減少し、皮下脂肪組織も減少する。

## 3. white fibrous papulosis of the neck (Shimizu)

### 症状

高齢者の頸部に、直径 2 ～ 4 mm 程度、円形～橢円形、白色



図 18.3 white fibrous papulosis of the neck  
2 ～ 4 mm 大の白色小丘疹が頸部に多発。